

# 理研会報

行 務 局  
印教研理科研究部  
成田市立成田中学校  
成田市土屋928-1

## 印旛郡理科作品展

### 小学校論文の部

木刈小 伊藤 久男先生

低学年では、身の回りの出来事や生活の中からテーマを見つけ、観察・実験をしてまとめた作品が多く見られました。今後の課題として、子どもの発想を大切にしながら、追究すると面白そうな観点について親や担任からのアドバイスがあると、より一層深まりのある作品に仕上がると思います。

### 中学校標本の部

七次台中 松田 治久先生

今年度は、どの作品も丁寧にきれいに仕上げられていました。植物標本では、根まで完全な形として標本づくりをしているなど、基本的な学習ができています。指導してくださった先生方や保護者などのアドバイスが良かったのだと思います。また、標本作製の動機や考察等が付記されているものは評価が高かったようです。

### 中学校工作の部

四街道北中 清水 龍彦先生

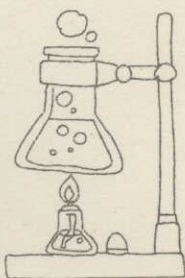


今年は例年より出品数が増え、よかったです。各部会とも工夫された作品が出品されましたが、もう一工夫という作品が多かったと思いました。また、審査の時にきちんと動作しなかったため入賞できなかった

### 中学校論文の部

四街道北中 角井 一郎先生

中学校科学論文の審査をいたしました。さすがに各部会から選ばれてきた論文だけあって、いずれも優秀な作品ばかりです。特に1年生の作品に力作が多かったように思います。



審査した作品の中に見られる特徴は、繰り返し実験を行ってデータをたくさん取り、時間をかけて結論を導き出そうとしているもの。数年にわたり一つのテーマで追究し、年を追うごとに研究の内容が充実してきているもの。地域の自然を丹念に調べ上げ、地域を再認識している

もの。中には、博物館の学芸員を訪ねアドバイスをお願いしながら、研究を進展させていた生徒もいました。グラフを使った、写真を挿入したりして、まとめ方に工夫のあるものも目立ちます。こうした実験・観察を中心にした取り組みは、日々の授業の中では時間的にとても行えないものばかりですが、科学本来の追究の姿です。時間のかかる研究に正面から取り組む生徒がたくさんいてくれることを大変うれしく思いながら審査を進めました。

その中で金賞を得たのは、研究のねらいがはっきりしているもの、データの数が十分でデータ処理も適切なもの、科学の手法がよく指導されているもの、中学生らしい視点で取り組み、自分なりの考察がなされているもの、などでした。また、継続性のあるものも高い評価を得ています。

これからの課題についても触れておきます。中には、観察や実験のねらいが希薄であったり、独自の視点が足りない作品も見かけます。観察や実験が、観察のための観察、実験のための実験、になってしまい、課題を解決しようとする姿勢が見えてこないのです。さらに、研究であれば課題を一つ解決することに新たな疑問が生まれ追究していくものですが、ここでも、実験・観察がこまぎれで関連が薄いのです。ねらいが焦点化すれば、もっと発展できるレポートも多いと感じました。今後の指導の参考にしていただければ、と思います。

ご指導に当たられた先生方に敬意を表し、また今後とも、手間をもうとわず研究に取り組む理科好きな生徒をたくさん育てていきたいと考えます。

印旛郡理科研究部  
事務局